

● はじめに

- 本チェックリストは、項目にチェックが入れば、プラスの取組になっていると判断されるもので、チェックが入らなくても、マイナスの取組と判断されるものではありません。この点を理解していただき、積極的に活用してください。
- 本チェックリストを活用することで、配慮の方向性が分かり、個々に取り組むよりも社会的評価が得られやすくなります。
- このチェックリストは、大規模行為届出に併せて所管の県民事務所等へ提出してください。県は、それを基に、優れた取組の広報などを行っています。また、取組の件数や面積のほか、取組成果の点数などを整理し、県全体の取組の成果として公表していきます。

● 本チェックリストの使い方

- チェックリストは【構想・計画】【設計・施工】【管理】の3段階に区分しています。事業によっては、これらの事業段階に明確に区別できない場合もあると考えられます。その場合には、事業段階に関わらず、すべての項目をチェックしてください。
- 本チェックリストを県に提出していただくタイミングは、大規模行為届出時を想定していません。したがって、【設計・施工段階】【管理段階】については、実施を予定しているものとして、チェックをしてください。
- 事業前と事業後の結果を、《あいちミティゲーション定量評価手法》を活用して、点数化してください。これにより取組の成果がアピールしやすくなります。(※)
- 事業に伴う各種手続きのできるだけ早い段階で、県にご相談ください。

事業担当部署名・企業名 など
事業の種類 (○をつけてください) 道路・河川・公園・公共施設 () ・その他 ()
施工場所 (地図を添付してください)
事業名称
事業期間
事業概要 (図面などの内容がわかる資料を添付してください)

■チェックリスト

【構想・計画段階】

- A1 資料やヒアリングなどから、事業予定地及び周辺の植生、動植物の生息生育状況、基盤となる土地条件を把握した。
- A2 現地調査を実施し、事業予定地及び周辺の植生及び動植物の生息生育状況を把握した。
- A3 《生物多様性ポテンシャルマップ》などを用いて、事業予定地の生態系ネットワーク上の位置づけを把握した。(※)
- A4 目標種や目標環境を設定した。
- A5 自然の把握や、生態系ネットワーク上の位置づけなどを、事業内容に反映した。
- A6 回避・最小化・代償の順に自然の保全対策を検討した。
- A7 在来種の苗木などの入手方法を検討した。
- A8 地域の生態系ネットワーク協議会の活動状況を把握した。

【設計・施工段階】

- A9 生物の生息生育に配慮した構造物や植栽方法などを検討した。
- A10 植栽に在来種を使用した。
- A11 地域住民や企業の参加による植樹などを実施した。
- A12 施工時の濁水の流出防止や、工事用道路による影響の最小化など、施工時の影響軽減などの対策を検討、実施した。
- A13 継続的な管理を行うための管理計画を策定した。

【管理段階】

- A14 外来種の拡大防止に努めた。
- A15 地域外から、生きものを導入することは避けた。
- A16 地域住民や企業の参加による管理を行った。
- A17 生きものの生息生育を考えた管理を行った。
- A18 定期的に生きものの調査を行い、自然の保全・再生状況を把握した。
- A19 必要に応じて、管理方法などの改善を行った。
- A20 事業内容や成果について広報し、取組の普及・拡大につなげた。

《あいちミティゲーション定量評価手法》による事業前と事業後の点数
結果 (事業前 _____ ポイント) ⇒ (事業後 _____ ポイント) (※)

その他、工夫した点・アピールポイントなど

※: 《あいちミティゲーション定量評価手法》、《生物多様性ポテンシャルマップ》については、実施可能であれば、ガイドライン(全編)を活用して、実施してください。

<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/senryaku/senryaku.html#guidelinedownload>

■チェックリストの問合せ先

愛知県 環境部 自然環境課 生物多様性保全グループ
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-954-6475 FAX 052-963-3526



県では、開発行為に伴う緑地整備や自然環境の保全・再生のための専門家派遣を行っています。是非、ご活用ください。